

長堀確認調査

1. 目的

長堀の基礎及び控石の状況並びに石垣の修復履歴を把握することで、遺構の保存を前提とした復旧工事の設計・施工に資する。

2. 方法

- ・控石の現況確認のため、基礎部と控石周辺にトレンチ設定（5箇所）
- ・トレンチは、大きさ 2m×6m（東端は 6m×22m）、深さ 1m 程度（遺構の構造がわかる程度まで）
- ・調査終了後は発生土で埋め戻し

※位置や規模は多少変化する場合があります

3. 長堀の修復履歴について

	修復年	箇所	原因
1	昭和 29 年	西側約 81.8m	倒壊（木材腐食による自然倒壊）
2	昭和 35 年	東側約 60m	倒壊（人為的なミス）
3	昭和 52 年	全域	保存修理（台風・経年変化による）
4	平成 3・4 年	中央約 140m	倒壊（台風）
5	平成 26 年	西端（馬具櫓脇）	馬具櫓台石垣保存修理

瓦

控貫

下見板

下見板

灰石(阿蘇産)

基礎石

雑石 山砂突き固め

コンクリート

割栗石

D-13

モルタル

0 50cm 1,000

800 1,200

昭和 52 年修理模式図

馬具櫓

城方門

平成26年修理範囲

昭和29年倒壊範囲

平成3・4年修理範囲

昭和35年修理範囲

長堀

坪井川

竹の丸

五階櫓跡

平櫓

調査予定箇所

昭和35年修理控柱

昭和52年修理控柱

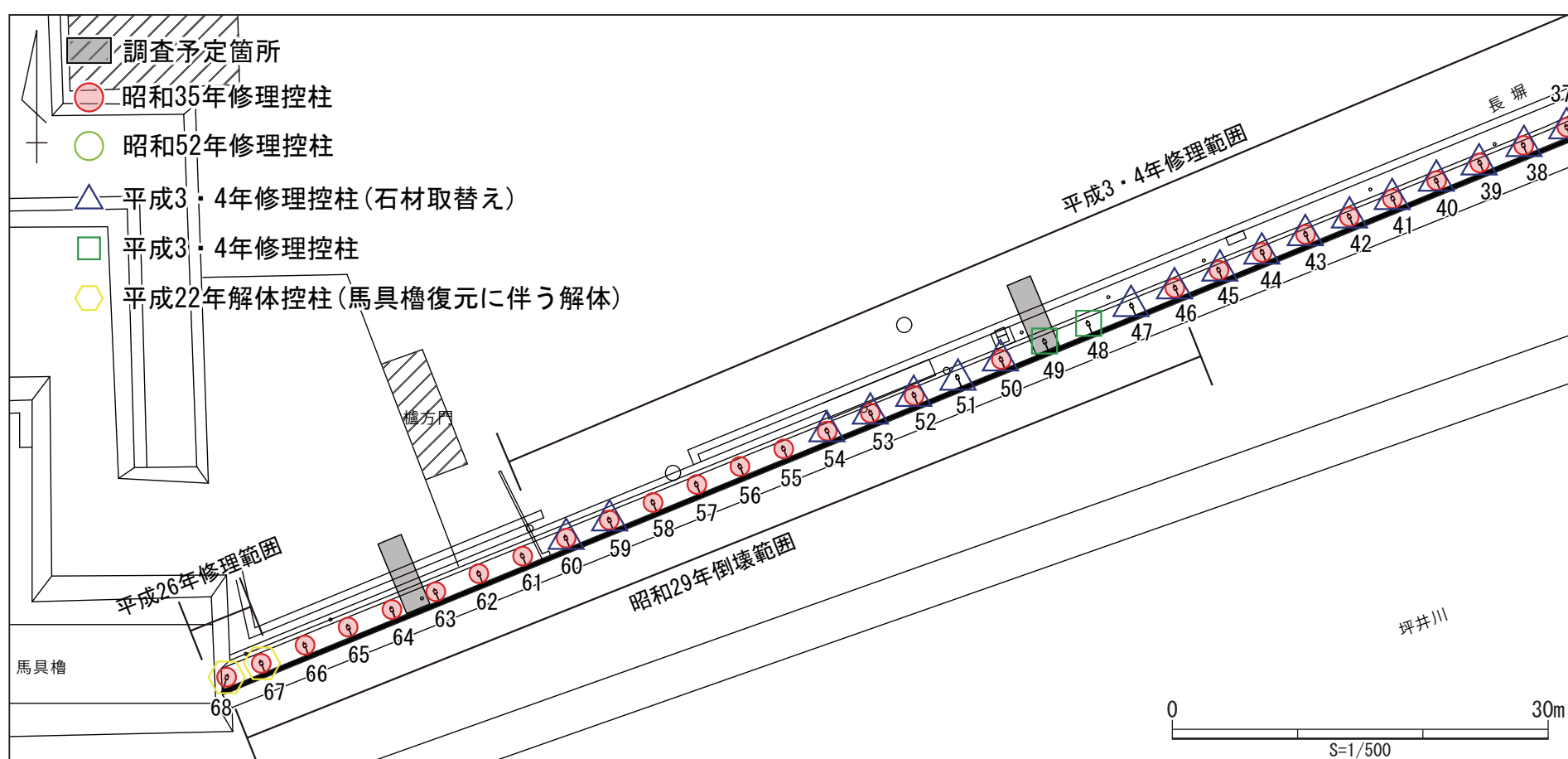
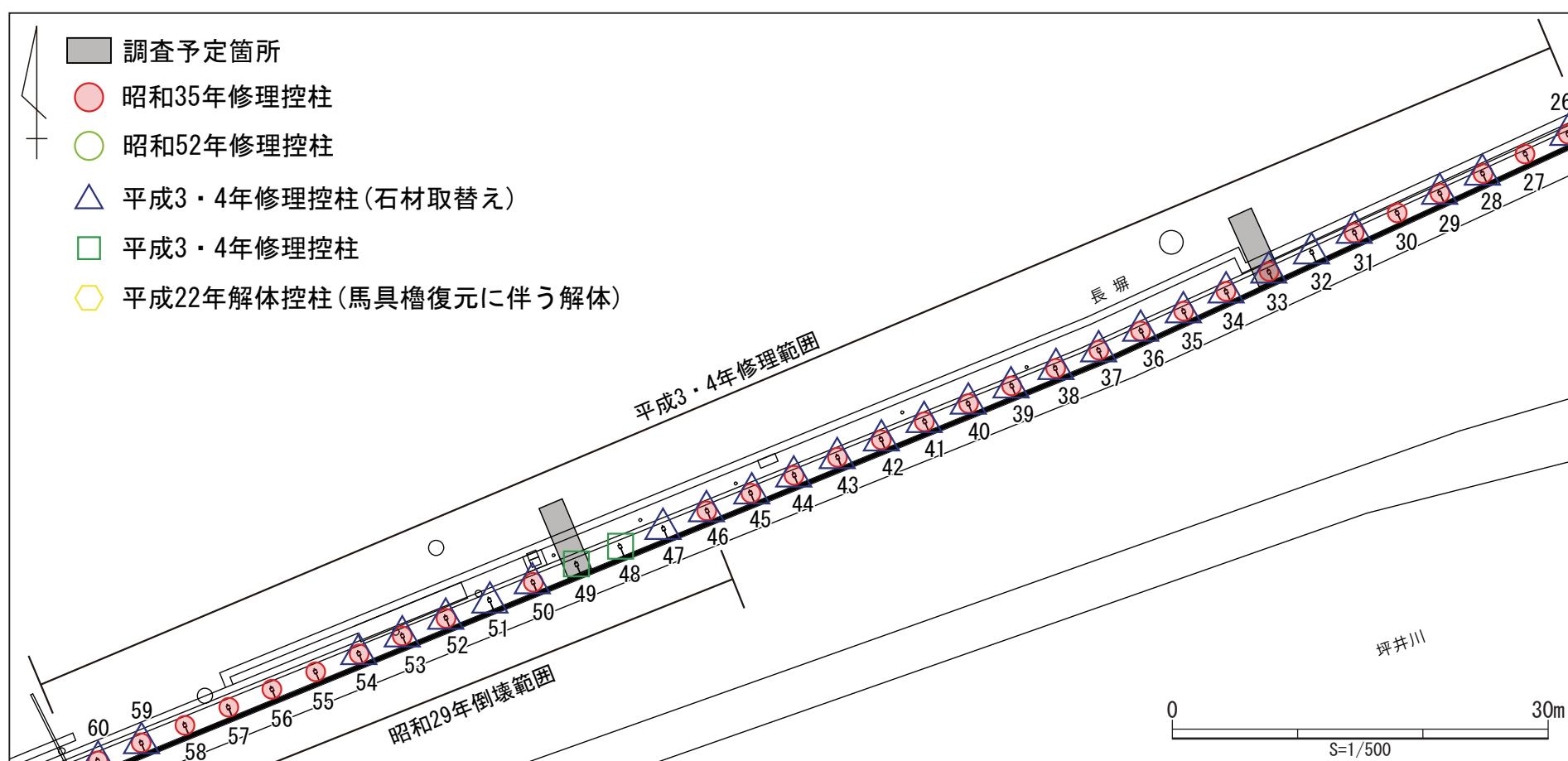
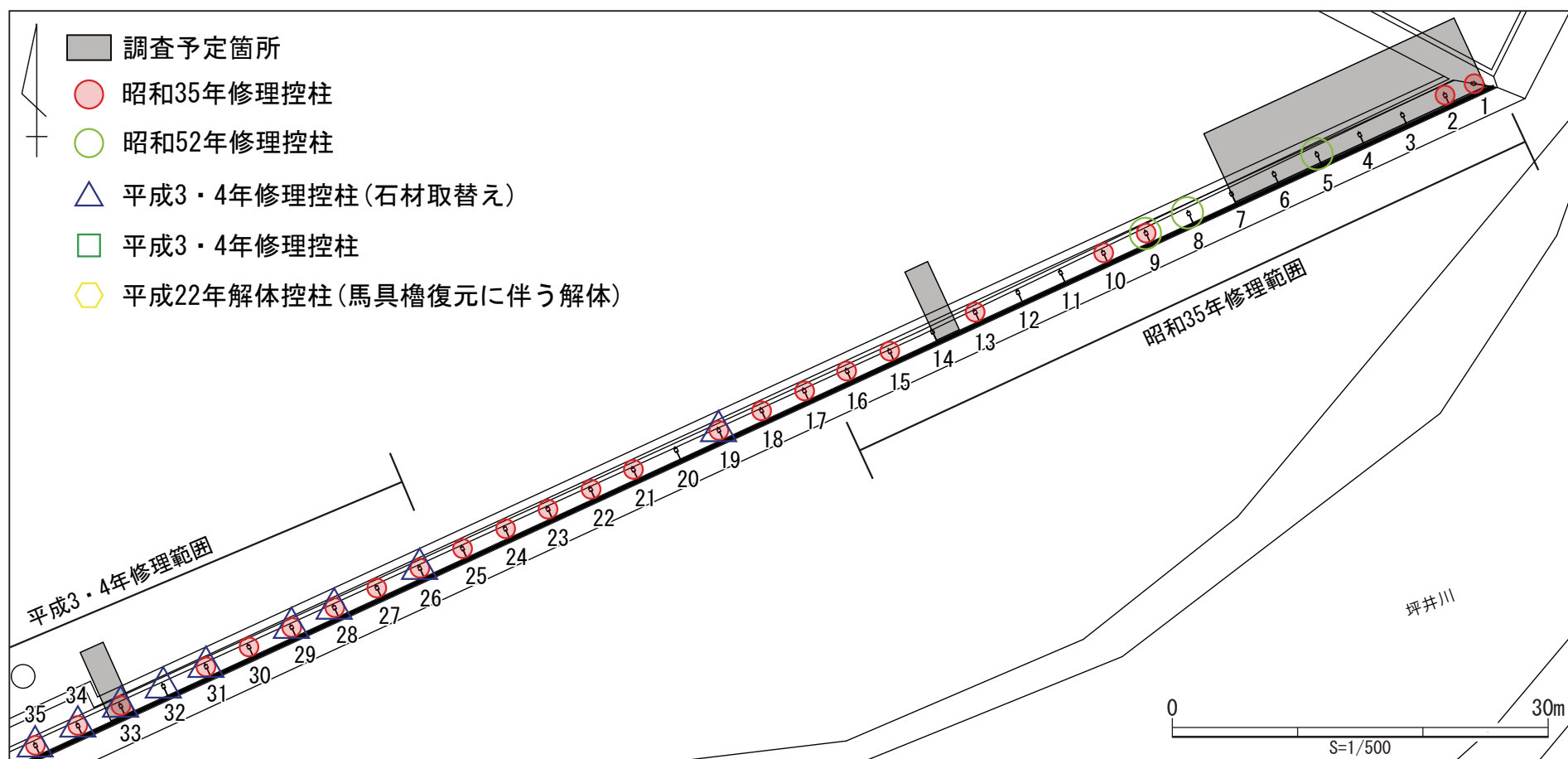
平成3・4年修理控柱(石材取替え)

平成3・4年修理控柱

平成22年解体控柱(馬具櫓復元に伴う解体)

0 50m

S=1/1000



詳細図